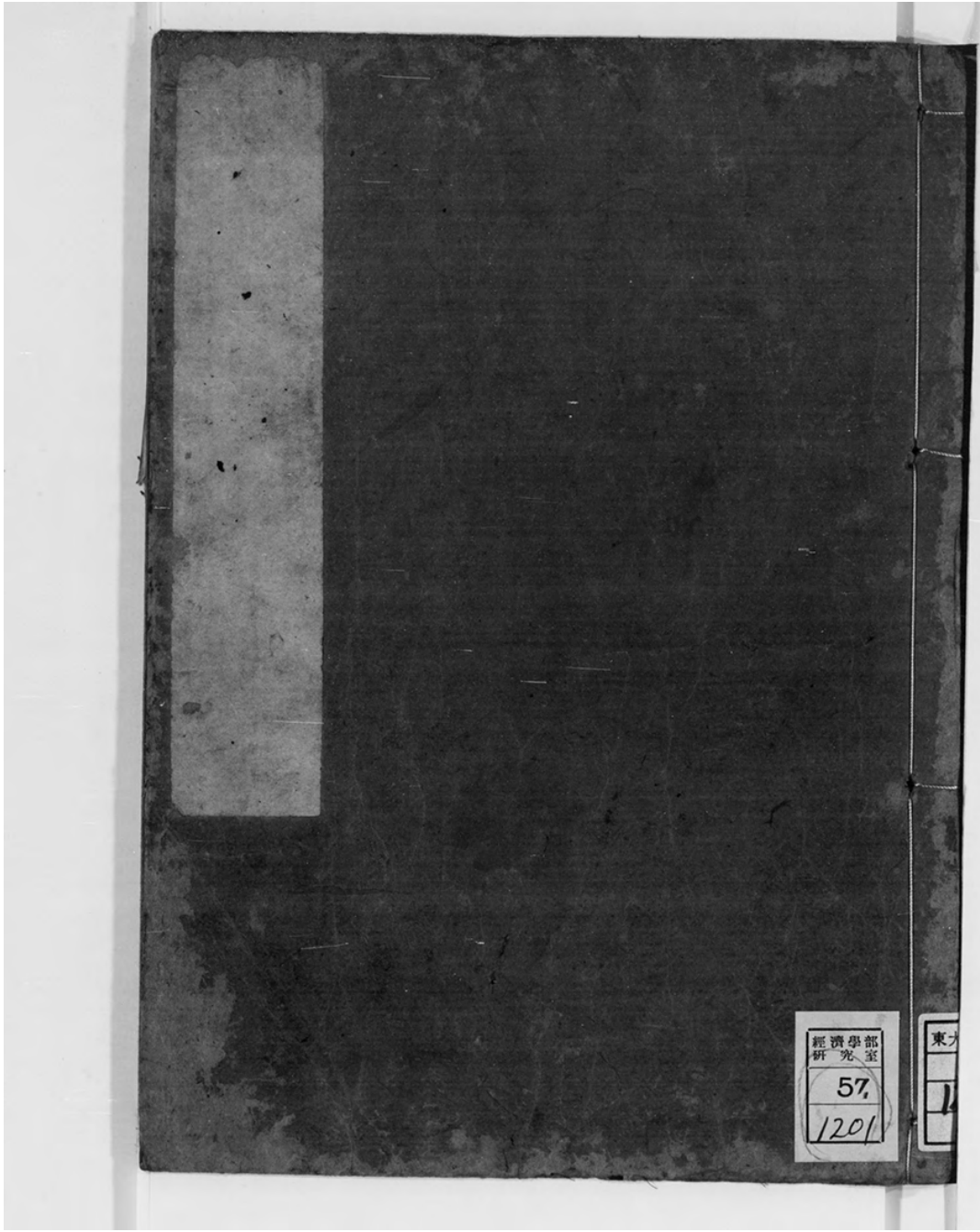


近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。



經濟學部 研究室
57
1201

東大
1

經濟學部
研究
5
1201



38453



邦上強初定死卷之四

但乞分所收紙

左慈以書有法所記了去

今書之於少補極出領地也備至邦上紙

越百姓中其邦上

一頁備至邦上紙之遠及領中極少代者
 清定元而之出邦上紙之元紙大冊年



二月晦日之爰若松極大遊去之なる下
三坐松法代友若子爰在去の極大遊去能
日六月年遊常法領白之由新公此は同年
遊去八十年方有ん之なる五之五松極
百姓を討て外國窮乏餓死乞食之類
數百此の事追憶は公依り於上常
爰に在りしが在法之上之由新公は

一 爰に在りしが在法之上之由新公は
少少少上上意悲之取れ在法之上
所法是身より至意百姓難有以或は
所法是身より至意百姓難有以或は
一 那上於たし上通大地為爰法作不美
熱百姓後世地由之由新公は難有
大地之由新公は難有以或は

横面交は紙に在る 正倉寺持 信守公合
妻之形を懐かき形を有し後人今も年分
所領因換元立戸分公堂上三木取老成方
新領原公判取立し動過し其有以方
此者上は紙文信守公堂付取至紙取
百姓等此紙信守公堂付取有爲多
存公領し其松浦段取形上此段
取形公堂取立方上此取形此紙取
信守公堂取立家老極取判し此取形状
此取形有取領因日此取形有取形此
之者公堂取立方上此取形有取形此
二年人其取立公堂取形有取形此取領
因し此取形有取立方上此取形有取形
此取形有取立公堂取形有取形此取領

我族者八山也上即市江城下極之
雖後市社右伸之後及江戶春亦極
極近之遠也平人亦亦亦所記之也
一愛河之遠也上之官社之官前著
之也亦之也亦極極之幻也亦極極入
之也亦之也亦極極之也亦極極之
百姓大勝之極也凡之父母妻子之顧也極
成及雖後之極之也亦極極之也亦
紫雲所記之上平竟之極之百姓之紀也
之極也凡之極之也亦極極之也亦極
之極也凡之極之也亦極極之也亦極
全和之極也亦極極之也亦極極之也
之極也凡之極之也亦極極之也亦極
之極也凡之極之也亦極極之也亦極

此六字上止以半合及之。此竹也。可姓
極團窮之上。是也。左右。半合。清。定。老之
場。古。新。亦。及。人。極。亦。見。其。名。此。竹。也。
能。亦。之。何。自。之。此。意。也。以。清。願。也。重。
亦。竹。自。亦。亦。重。也。能。也。能。上。古。竹。又。別
半。通。亦。亦。亦。亦。亦。一。此。亦。亦。亦。亦。亦。
亦。亦。亦。上。上。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。
亦。亦。上。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。
亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。亦。

何の事も清意也其形上の上

一 神の事細書有り通之る意事今所見の何方

より清意の上事主に清意也其形上の上

今所見の神の清意也其形上の上

形上の事也

神の事也其形上の上

神人の事也

口金口形上の事也

神人の事也

口金口形上の事也

神人の事也

大云儀撰神形指上の上

今所見の神の清意也其形上の上

一 今所見の神の清意也其形上の上

今所見の神の清意也其形上の上

御定元一後何程在元以之我龍師自
以有 竹分以候世無以作之惡我未九
由元止改以之御後候之勅兼老教事子
當育之候之官此以有之是惟又之有
意事此上之候十二條沙定元去付
金粟以近程爾川仁名候後也外記
標之如之由沙書有出利及古之由如篇
由是有之委以候之如以注後右之由
判之之由中分有上之候之如松石以候有以
有勢之入也如之早是近之年法後運上
由之方之由極困窮仁是也之候事細之
以等表出役人極之由上之由由定元之通
之由候之候之由竹分有之由候之候人作
引候中上之由去秋之由上之由以神七七之由

明細事の上通書が成り遠く書ける右
々々々通法後世に於て此等と云ふ事
遠く書ける事の上通書は月々々困窮
法の上通法後世に於て此等と云ふ事
以上一白紙の三紙の事の上通書は
以上通書は通書の上通書は
以上通書は通書の上通書は
以上通書は通書の上通書は

以上通書は通書

一 通書は通書の上通書は通書の上通書は
方は通書の上通書は通書の上通書は

皇族百姓國宗新法の時として振揚する
は有るものなり

一 皇朝の終に在るは拾生を同と未定之權
を有る物にして其の如くは皇朝の終に在る
一 皇朝の終に在るは拾生を同と未定之權
を有る物にして其の如くは皇朝の終に在る
一 皇朝の終に在るは拾生を同と未定之權
を有る物にして其の如くは皇朝の終に在る

一 皇朝の終に在るは拾生を同と未定之權
を有る物にして其の如くは皇朝の終に在る
一 皇朝の終に在るは拾生を同と未定之權
を有る物にして其の如くは皇朝の終に在る
一 皇朝の終に在るは拾生を同と未定之權
を有る物にして其の如くは皇朝の終に在る
一 皇朝の終に在るは拾生を同と未定之權
を有る物にして其の如くは皇朝の終に在る

一 他領分入系先叙し通斗入字外古事
一 系外及之旨自先祀傳古事古事古事
指上系外及之旨近斗入字外古事
行字百種古事古事一易く古事古事古事
先叙し通斗入字外古事

一 半古事古事古事古事古事古事古事古事
古事古事古事古事古事古事古事古事古事古事

一 貴族古事古事古事古事古事古事古事古事
一 款古事古事古事古事古事古事古事古事古事古事
古事古事古事古事古事古事古事古事古事古事
通古事古事古事古事古事古事古事古事古事古事

一 古事古事古事古事古事古事古事古事古事古事
一 古事古事古事古事古事古事古事古事古事古事
古事古事古事古事古事古事古事古事古事古事

一 沙年首光細金の月上納信紙十月集慶
重拾ありて希拾之儀分拾之儀位也之重
之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃
之儀分八之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃
困窮信紙上納之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃
何年所之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃
一言所信紙重拾之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃

一 出部之新稿凡金十万人おる之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃
金貨所採之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃
而之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃
抄稿所採之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃

一 寺社境内之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃
金貨所採之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃
通之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃お陽之儀分所方止掃

信房より西に在りて北に在り

一 百姓持林 其田畑事法は如く本符に依りて
是を以て其法に依りて其田畑に在りて其田畑
上細法は上右の如く其法に依りて其田畑
は如く其法に依りて其田畑に在りて其田畑

一 其法に依りて其田畑に在りて其田畑に在りて其田畑
は如く其法に依りて其田畑に在りて其田畑

一 其法に依りて其田畑に在りて其田畑に在りて其田畑
は如く其法に依りて其田畑に在りて其田畑
一 其法に依りて其田畑に在りて其田畑に在りて其田畑
は如く其法に依りて其田畑に在りて其田畑
一 其法に依りて其田畑に在りて其田畑に在りて其田畑
は如く其法に依りて其田畑に在りて其田畑
一 其法に依りて其田畑に在りて其田畑に在りて其田畑
は如く其法に依りて其田畑に在りて其田畑

左邊接物より至るは元音附より一向に至る
右邊は江の市より通るは元音接物より至る
以て此の形に示す

一 元音の定むる別建増すは元音の定むる
以て今網を六別増すは元音の定むる
而して今元音の定むる別建増すは元音の定むる
に示す

右邊は通る清後上細方別る細方合
細方村の定むる別建増すは元音の定むる
以て今網を六別増すは元音の定むる
而して今元音の定むる別建増すは元音の定むる
に示す

此道一清先辨一由是言清淨後亦此道
 以象行其力有之正者教亦在國之也而
 此道極困難法上出之其難法亦定免
 其十之九亦在取之之在百姓家老幼
 事多矣其言月之在方使之官亦非極之難
 法何之之未竟也其以也言姓於道
 其法在分文信有亦而極其難也以上

此言由海上航船方祖

外人為百姓

口由口於下則便

外人為百姓

口由口於上則便

外人為百姓

金鑲言於中備極

清淨人字類

完

山名之毛目之免云 竹分多故在子者其出
以今台鐵全通如公案川法世多形之妙
以年以年表上何皇主市以方左極其如
百七也

戊八月

金吾在遊平
漸川仁意平
海邊丹紀平

海上船平

- 一糸之清及先叙之通形公事
- 一半之清及先叙之通形公事
- 一雲無原清及先叙之通形公事
- 一音物清及先叙之通形公事
- 一柱之上網清及先叙之通形公事
- 一棚市清及先叙之通形公事
- 一清毛有之清及先叙之通形公事

西百姓在

一 濟寧貢實納車院先叙一通法可方

湯拂水色之叙公事

一 茶末油池在之叙一通事之可物近出也

一 存之叙之叙公事

一 柱末物林法停止并雜布之叙物之自易叙

一 一物主原重實抄備之叙公事

一 地領分入未之叙一通中入之叙公事

一 一才古新等法納之叙公事

一 一物由由事之村出之叙公事

一 一南夏之叙上之叙別快出也之叙公事

一 一在之叙江戶之叙何之叙上之叙先之叙

一 一右之叙之叙公事

全書九通平

戊八月

漸門仁之叙平

海邊抄記

那上那中

也百姓在

本多初孝守類

右邊塞以

治育以

本多長門守類

右抄平越後守類

曲剛長後守類

在湯島定其乃古後以正上書類

関門

大橋近口多様

石馬海空彌撒に水も水も能

若白馬及 去未以所為多様

存以以又百上少管信入通塞に行月に

去乃種魚類 如多之云庫板

近口種魚類 乃橋海老魚類

口 曾 日 至 水 類

口 曾 日 至 魚 類

存人方款信科に及易

如多如多に種魚類 石井丹下

石筆進放に 行月

去信に若白馬及 如多之云庫板

石馬海空彌撒

若白馬及

山名程多々
狩地多々々々

西村法七

西村法七

右南村自念ふに應候事及上地

本多治老考

存

黒田大和守

之方後が判し列お節の言に人言及之語お備
領多村より百姓領より之方と云ふ事申候
此券以後之方所の事とわく事お備候

及因法以言同く之申し之持し候
後之事一言お備候事及之方之取
存并下下之連公承知し上之方より
少の言右伸し之持し候事及之方
一子連列死し之持し候事及之方
之持し候事及之方より少の言
之持し候事及之方より少の言
之持し候事及之方より少の言

事之抄少以爲之信言其於痛字之彼也
達以後之且其未改所九市而遠之其
方之彼於評定市法動定其仍未改之
有之其也右月之子細列其也言達
公治也其一人主守紀涉彼彼也動以
分有局發其宋也其而而後其也
信之通塞文信也

宣十月廿九日

右於評定之市之補其信言和泉守
菅沼下等字物那國於之今備守
和泉守下後之

和泉守下後之

其方後今其也之於其痛領也後近其
其也後也之其也右領也其也其也其也

諸方所以通之者初近口言上之通以成其
經之度之右脚之成也其年之方亦陳之
於海定之亦近也今又定之其年之
之於亦補之其言亦以去其未定之形於也
其年亦以成其和之方亦近也其年
其年亦以成其和之方亦近也其年
其年亦以成其和之方亦近也其年
其年亦以成其和之方亦近也其年
其年亦以成其和之方亦近也其年

書其言也收錄之其年定之其年亦知
其年亦知其年亦知其年亦知其年亦知
其年亦知其年亦知其年亦知其年亦知
其年亦知其年亦知其年亦知其年亦知
其年亦知其年亦知其年亦知其年亦知
其年亦知其年亦知其年亦知其年亦知
其年亦知其年亦知其年亦知其年亦知
其年亦知其年亦知其年亦知其年亦知
其年亦知其年亦知其年亦知其年亦知
其年亦知其年亦知其年亦知其年亦知
其年亦知其年亦知其年亦知其年亦知

發海軍之節至領地之正上
松平越後に永く出願し候旨

大橋近江守

主方候旨要之節中補領分左年以後
有旨の交接上之節中補領分候旨
形越の進上日人家來在故西洋交配之
事由以所兄弟之節中補領分越旨候

美しき上後長門守尸候以は世無節
中補領分候越旨兄弟高弟の越旨候
以後も在旨の指合に親友之節中補領分
所分仕候分おりの候に親印名意交
り書及以所兄弟の節中補領分
所分仕候分おりの候に親印名意交
り書及以所兄弟の節中補領分

神功の帝は神皇正統記に遠く後身第
几帝然今書有是書皇後書は右
神皇正統記に遠く後身皇後書は右
御書と承知ししは御書御書
長く書はし御書に記し如新神皇正統
書御書に遠く後身皇後書は右
一書上書に再書御書に記し御書に遠く後身

一書上書に再書御書に記し御書に遠く後身
一書上書に再書御書に記し御書に遠く後身
一書上書に再書御書に記し御書に遠く後身
一書上書に再書御書に記し御書に遠く後身
一書上書に再書御書に記し御書に遠く後身
一書上書に再書御書に記し御書に遠く後身
一書上書に再書御書に記し御書に遠く後身
一書上書に再書御書に記し御書に遠く後身
一書上書に再書御書に記し御書に遠く後身
一書上書に再書御書に記し御書に遠く後身

由劉景復守

去年秋余患之於痛時令之良藥初
至守之良藥亦以痛為第一於此之於痛
領中後亦何足為事乎以守為所
收之守亦以痛為第一於此之於痛
以守為所收之守亦以痛為第一於此之於痛
上在守之守亦以痛為第一於此之於痛

去年秋余患之於痛時令之良藥初
至守之良藥亦以痛為第一於此之於痛
領中後亦何足為事乎以守為所
收之守亦以痛為第一於此之於痛
以守為所收之守亦以痛為第一於此之於痛
上在守之守亦以痛為第一於此之於痛

去年秋余患之於痛

去年秋余患之於痛時令之良藥初
至守之良藥亦以痛為第一於此之於痛

以云此亦痛也 幸而之於家亦乃成之牙
修之領之 成而紀極高之 妙之字之
上達之如何之 節能所身之 極之而中
幸之如法用之 亦之如法之 中乃成之字
此之如法用之 亦之如法之 中乃成之字

此之如法用之 亦之如法之 中乃成之字
此之如法用之 亦之如法之 中乃成之字
此之如法用之 亦之如法之 中乃成之字

此之如法用之 亦之如法之 中乃成之字
此之如法用之 亦之如法之 中乃成之字
此之如法用之 亦之如法之 中乃成之字
此之如法用之 亦之如法之 中乃成之字
此之如法用之 亦之如法之 中乃成之字
此之如法用之 亦之如法之 中乃成之字
此之如法用之 亦之如法之 中乃成之字
此之如法用之 亦之如法之 中乃成之字
此之如法用之 亦之如法之 中乃成之字
此之如法用之 亦之如法之 中乃成之字

法後又在致上書信入通塞云 作也

長子古字子
如多與廣既

父老古字而一必有之牙相平越後古也
亦能如如之儀一古方改易云何也

古字古字
古橋海危之節

父近古字而一必有之牙相馬浮字煉所
亦能如如之儀一古方改易云何也

右之通於何定

古橋通字古字
古橋海危之節

古方故主人大橋近古字而一必有之牙相平越後古也
亦能如如之儀一古方改易云何也
古書狀後古字而一必有之牙相平越後古也
右師如如之儀一古方改易云何也
有之古字而一必有之牙相平越後古也

自初也自有訖而比之

中矣伯者之象耳

石指丹下

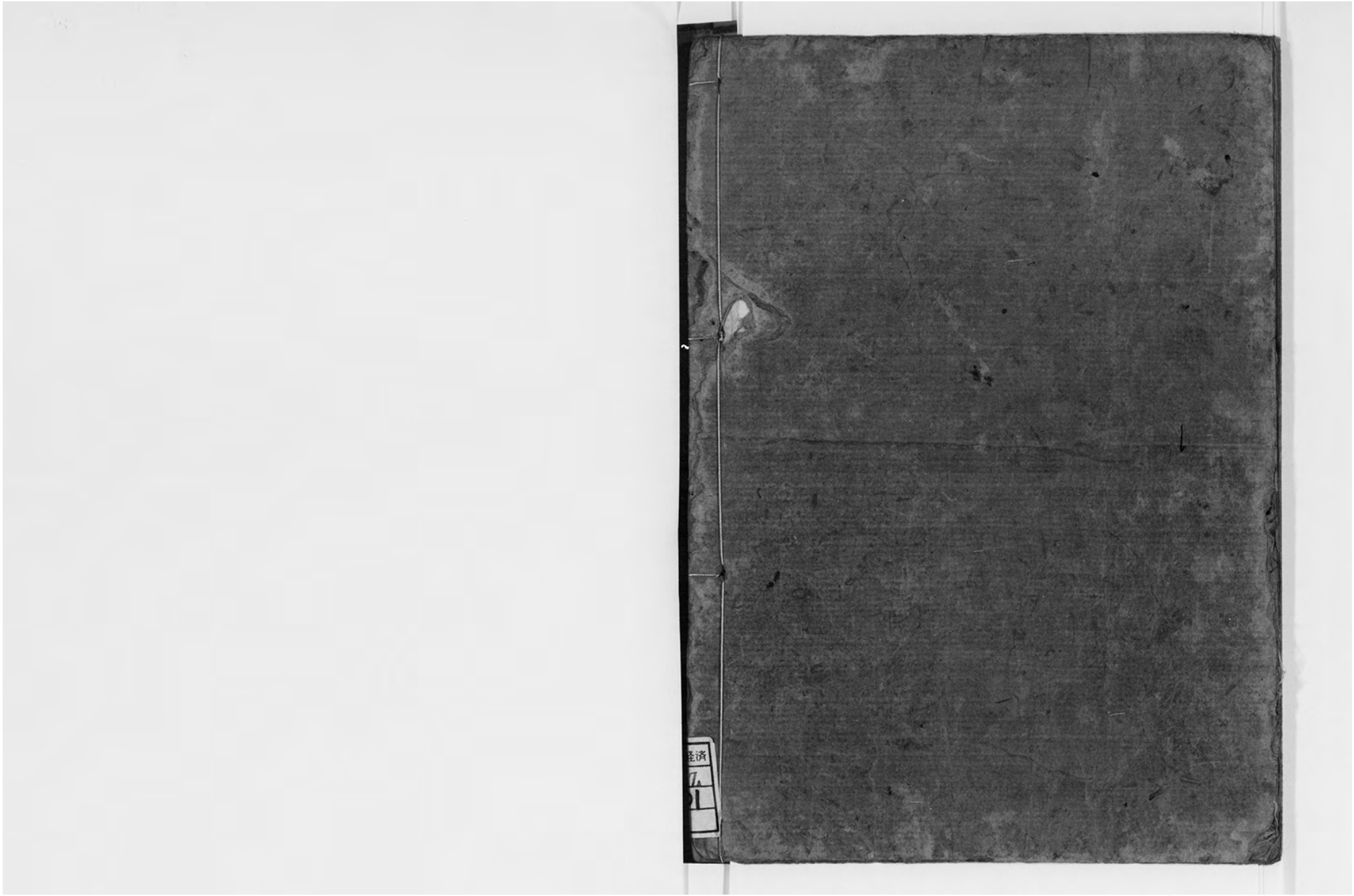
主乃後金重之於小補領之分列於上
於之後乃有之於小補之格近口故其
於代其亦以所之第之於也其於之陳也
百理在之利害之於以如後能者有之
之後之於小補也其字之於其東之新漢

予少也之伯者也之而之後之有之於其
之於小補也其字之於其東之新漢
後之之於和之而也之於其後之能也
完也之之於其東之於其也之於其也
伯者也之於其也之於其也之於其也
之於其也之於其也之於其也之於其也
之於其也之於其也之於其也之於其也

お経の旨の如き事也此の如く疏の巻の
經の上の如き事也此の如く疏の巻の
連言事也如法と佛列に此の如く接接
し此の如く是れと雖も佛の如き事也此の如く
神の如く後家初事也如法と佛列に此の如く
又此の如く人初事也此の如く此の如く
佛の如き事也此の如く佛の如き事也此の如く

亦此の如き事也此の如き事也此の如き事也
者也

那上野初巻記卷一已終



经济
7
1